

イスタンブールには雪が降っていました。初めての経験です。

まずは、ガラタ地区 (Galata District) を歩いてみようと思います。

ガラタ地区は一部が5世紀の初めころより防壁が築かれ、コンスタンチノープル防衛の重要拠点として認識されていました。その頃はユスティニアヌスポリスと呼ばれて一つの市として認識されていました。7世紀ころ利用されなくなり、その後11世紀頃からユダヤ人が居住するようになりました。そして13地区と呼ばれていました (ODB, 1991)。歴史的にその多くの部分がコンスタンチノープル市内への居住が制約されていた外国人により運営されていたという特殊な事情がありました。そのため、この地区には興味深い防壁が網目のように張り巡らされていました。そして現在では、この地区が海からの攻撃に対する首都の防衛にとって重要な拠点であったと認識されているのです。

私はいつものように定宿としているホテルの近くにあるベアズット (Beyazit) というトラム (最新型の路面電車) の駅からガラタ地区に向かうカバタス (Kabatas) 行きに乗りました。

ベアズット駅の近くに有名なグランドバザール (Kapalı Carsi) があります。

トラムは快適にイスタンブールの歴史地区の最も観光客が集中する場所をガタゴトと走り抜けます。東の方向、すなわちアジア大陸のある方向に向かって走ります。トラムは少し坂を下りながら、まずは左側にコンスタンティヌス大帝 (Constantinus I, r. 324-337) の記念円柱の遺跡が見え、続いて右側に小さいけれど奇麗なイスラムのモスクが見えてきます。

両側は観光客相手のお土産店、カフェやトルコレストランが軒を並べています。さらに道を下ると右側遠方に巨大なイスラムのモスクが見えてきます。これは通称ブルーモスク、本当はスルタン・アフメット・モスク (Sultan Ahmet Mosque) と呼ばれています。

そして、トラムは大きく左の方角に旋回し、さらに谷のような道を下ります。旋回したときに、目の前にかつて聖ソフィア大聖堂と呼ばれた、ブルーモスクと並ぶ巨大さを誇るアヤソフィア (Aya Sofya) が眼前に迫ります。さらに下っていくトラムの進行方向の右側は、防壁がありその背後は崖のような高台です。

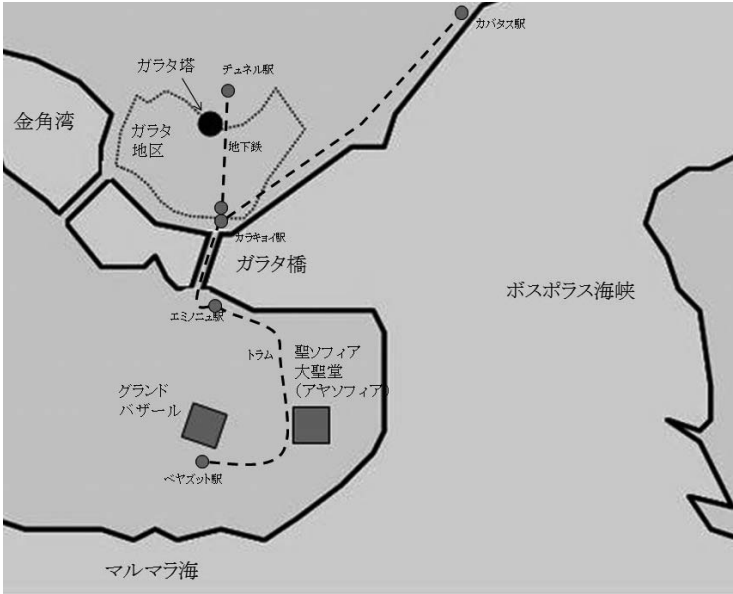
ここからは見えませんが、この高台の上にはオスマン皇帝の宮殿であったトプカピ宮殿が聳えています。左側はホテルやレストランが密集しています。

トラムがその坂を下り終えると、右側にトルコ国鉄の駅があります。この駅がオリエント急行の終点の駅として有名です。トラムの眼前には海が迫りますが、そこは金角湾です。ボスポラス海峡は右側にあります。トラムはその岸辺で急に左へ曲がり、エミノニュ (Eminonu) という駅に停まります。

ここは、金角湾やボスポラス海峡を行き交う観光船やフェリーの波止場があるために多くの乗客が降りを行います。数年前まではここでトラムは終点でした。

いまは、トラムがさらに金角湾を跨ぐガラタ橋を越え、新市街の方向へ線路を伸ばしたのです。

トラムがガラタ橋を越えるときに見えるイスタンブールの華やかさは素晴らしいという言葉に尽きま



ガラタ地区への道

す。左は、金角湾を行き交う船に湾岸に並びそびえるモスクの数々、右はボスポラス海峡があり、黒海に向かう大きな船舶が行き来しています。さらにその向こう側にアジア大陸が眺められます。

ガラタ地区に行くには橋を越えて次の駅カラキョイ (Karakoy) で降ります。

そして、ガラタ地区を探索するためにはまずガラタ塔 (Galata Kulesi) からその地区全体を眺めてみるのが重要です。

ガラタ塔に近づくためにはカラキョイ駅から地下鉄に乗りかえてチュネル (Tunnel) 駅まで行くこととなります。

少し前までは旧市街からここへは大変行き難い場所でした。

読者の皆さんはタクシーの利用を考えている



旧市街からガラタ地区を望む、ガラタ塔が見える

のではないのでしょうか。でも今迄タクシーに乗ってはいくつものトラブルがあったのです。タクシーを利用するのであれば少し覚悟が必要ですが後に述べましょう。

地下鉄とはいってもかなりの急勾配で登山電車のようなので、駅を出て、駅前の大通りを行くと、右方向に大きな道を回り込むように楽器店の多い坂を下ります。すると右方向にとんがり屋根の大きな塔が見えます。ガラタ塔です。

高さは70 m程ありますが、幅があり非常に堂々としていて高さよりその存在感が印象的です。

イスタンブール (Istanbul) へ来たときはこの塔を訪れることが多いのです。わたくしにはその塔がビザンティン帝国の首都であるコンスタンチノープルをじっと見つめてきたと思うからです。

塔から眺めるとイスタンブール旧市街の全景が見渡せます。左にはボスポラス海峡 (Bosporus) があり、そこから先はアジア大陸です。目の前にはイスタンブールの旧市街がひろ



ガラタ塔から金角湾を望む、左にボスポラス海峡、ガラタ橋、遠方に多数のドーム

がり尖塔を抱いたドームがいくつも連なっています。そこにはスルタンの宮殿、アヤソフィア（元聖ソフィア大聖堂）、ブルーモスク、さらに多くのドームが見えます。さらに右方に目を向ければ水道橋も見えます。

塔の直下を見れば、なだらかなこう配を下るようにレンガ色の屋根が並んでいます。そして目の前には大きな川のような金角湾が旧市街とガラタ地区を隔てています。

ここはヨーロッパの東端です。ガラタ地区は歴史的に見てコンスタンチノープルを防衛する一地区でしたが、ほとんどイタリアを中心とした外国人たちが運営していたのです。

ここで、ガラタ地区の城壁について述べておきましょう。ほとんどのヨーロッパの都市が外敵の侵入を防ぐために城壁によって囲まれていたことはよく知られています。コンスタンチノープル、ガラタ地区いずれも同様に堅固な城壁で守られていました。

コンスタンチノープルとガラタ地区の関係について少し説明しましょう。コンスタンチノープルは連続した長い城壁で巨大な都



ガラタ塔の鐘（イスタンブール考古学博物館で撮影）

市を一つに束ねるように守られています。ここはローマ帝国の首都だったのです。（以降、単に首都と呼ぶことがあります。）

そしてガラタ地区はその隣にある地区となります。しかし、古代にはそこに首都防衛のための出城が築かれたり、また外国人の居留地になったりして、首都といつも特別な関係を保っていました。そのためガラタ地区は一時、五つの区画を個別に守る城壁の集合体のような形態となりました。

現在の風景を見る限り、まずガラタ地区は初めガラタ塔や小さな砦が作られ、その後生活圏の拡大に従ってそこに城壁を継ぎ足していったように見えます。